

円居

まとも

令和7年12月1日(月)  
 備前市立備前中学校  
 校長 藤森 卓麻  
 0869-64-3365

## 繋がり求めて・・・

### ■「大人」と繋がる

#### ― 1 年生のキャリア

学習の一環として、地域の「働く大人」の方にお話をさせていただく「みらいスケッチ」を開催しました。講師の方は、P



TAの運営メンバーさんをお願いをしてコーディネートしていただきました。その結果、様々な職種の個性豊かな講師の方が10人も集まってくれました。今は何でもネットで「検索」できるような気がします。ある職業についての仕事内容、その職業へ就く方法……。でも、「この人」の生き様まで検索することはできません。中学生の頃好きだったこと、今の仕事に就くまでのいきさつ、仕事をする上でのやりがい、大変さ、お金の稼ぎ方等等、まさに大人の話を子どもたちにまっすぐぶつけていただきました。特に子どもたちにとって、わからないこと、将来のこと、というのは楽しみでもあるでしょうが、大きな不安でもあります。それがこうして、今まで実際に経験してきたこと、今、感じていること、未来に

描いていることを、ご自分の言葉で熱い思いを持って話してくださいことは、子どもたちにとって大いに励みとなったと思います。本当にありがとうございました。

### ― 合同環境整備

11月8日(土)、保護者・地域の方、生徒、教職員合同で、昨年と同じくグラウンド東側の掘削を中心に、グラウンドの草抜き、武道場の掃除等に取り組みました。昨年までは、部活動の一環として保護者の方にもご協力をいただいているという形でしたが、今回は学校がボランティアを募り、PTAの運営メンバーさんにご協力を依頼するという形で実施しました。PTAの企画会議では、どうせ集まるなら交流の時間をとろう、とカレーを用意していただくこととなりました。環境整備は重労働でしたが、皆で一つの目標に向かって頑張る充実した時間となりました。その後のワイワイやりながらのカレーはとてもおいしかったです。進化を感じた合同環境整備でした。来年はさらに多くの参加があることを期待しています！

### ■ 異校種と繋がる

#### ― 合同避難訓練

恒例となっている伊部認定こども園との合同避難訓練を行いました。我々教職員にとっても、いざというときの動きを確認するためのものですが、生徒にとっても、自



分の命を守ると同時に、状況によっては周りの人の助けになれるようにというための訓練です。頼りにされる備前中学生であることを願います。



### ■ ぜび中学校へ！

様々な活動の中で、備前中の子どもたちの実際の姿をご覧になってください。大人から声を掛けてください。我々にも建設的なご意見をいただければありがたいです。★普段の日でも大歓迎。事務室で「来校者」の名札を受け取ってください。

### 「避難訓練」について ― ペルー事情 ―

私がかつて赴任していたペルーのリマ日本人学校でも、避難訓練はあった。日本と同じく、ペルーも環太平洋地震帯に位置する地震・津波多発国である。火災に加え、地震を想定した避難訓練もあった。(現地校で行われていたかどうかは定かではない)一方で、日本にはない訓練があった。それは「非常事態訓練」と呼ばれていた。何を想定していたかというと「テロリスト」である。当時、「在ペルー大使公邸占拠事件」から5年ほどしか経っておらず、安全面で日本の状況とはかなり違っていた。訓練は「アラルマ(＝サイレン)」が鳴り響くことでスタートする。テロリストが校内に侵入することを知らせる合図だ。アラルマは2種類。音によって逃げる方向が決まっている。高い塀に囲まれている学校から外に逃げられるのは、正門ともう一つ、校庭の隅にある普段は閉ざされた小さな門だ。アラルマが鳴ると子どもたちはどちらへ逃げればいいのか瞬時に判断し、猛ダッシュをする。日本の学校で使われた「おはし」押さない・走らない・しゃべらない(他に「おはしもて」等)「はここには存在しない。とにかく「走れ、走れ、走れ！」だ。小学1年生から中学3年生まで、一人でも多く逃げる、これしかない。実はアラルマにはもう一パターンある。2種類のアラルマが同時に鳴るパターンだ。これは「学校の外にはもう逃げられない」という合図。こうなると目指す場所は「シェルター」だ。校内にいくつもある、ドアが鉄板で補強されている小さな部屋だ。中には水と非常食、外につながる無線が備えられている。その部屋に向かって全力ダッシュ、扉を厳重に閉め、ただ息を潜めて隠れ続ける。

ある日の昼休み、事件が起きた。職員が点検中に誤ってアラルマを鳴らしてしまったのだ。校庭や教室で思い思いに過ごしていた子どもたちは同じ方向を目指して一斉にダッシュした。誤って鳴らしてしまったことはもちろんだが、職員の反応が子どもたちよりはるかに悪かったことが反省に挙げられた。「何かの間違いに違いない……」大人たちの方にそんな甘さがあった。

今、突然非常ベルや緊急地震速報の警報音が鳴り響いたら、備前中はどうするだろう。いや、それ以上の想定外のことが起きたら……。どんなことがおきても、各々が自分で考え判断し、子どもたちのために協力して最善解に向かえる備前中でありたい。